

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年1月25日
調査実施の時間	開始 10 時 分 ~ 終了15 時 分

訪問先事業所名 (都道府県)	医療法人社団日新会グループホームひびき (福島県)
-------------------	--------------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>大野恒夫</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>齋藤康</u> ヒアリングを行った職員数 (1人)

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	772500351
法人名	医療法人社団日新会
事業所名	医療法人社団日新会グループホームひびき
所在地	福島県喜多方市山都町北松ノ前3 1 4 4 番地 (電話) 0241 - 30 - 1123
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成20年1月24日

【情報提供票より 平成19年10月1日】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 16 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	利用定員数計 9 人 7 人 常勤 7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要(平成19年10月1日)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	6	要介護2	2
要介護3	1	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 81.3 歳	最低 69 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安部医院 入澤病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者がそれぞれ役割を担いながら広々とした共有空間でのんびりゆったり過ごしている様子が窺える。利用者や職員の表情も穏やかでホーム全体が和やかな雰囲気である。毎年の自己評価、外部評価に職員で積極的にとり組み改善していこうとする意欲が感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を運営推進会議のテーマにもし、手すりをつけたり、一人居場所作りなどの改善が見られるが、体制に関わる課題は法人としての話し合いも必要である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員みんなが自己評価項目について話し合いをしているが、どうしたら改善できるか引き続き話し合いを深めて欲しい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	2ヶ月に1回開催され話し合いはなされているが、メンバーに町内会の代表や家族の代表がいないので委員にもなってもらえるよう働きかけが必要である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見を言ったり要望を出したりするのはホーム全体の質を上げるために大切なことであることを理解していただけるよう働きかけて欲しい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	当地に開設されて丸7年になるとうとしているがまだ隣近所の住民としては受け入れられてはいないように思われる。具体的な課題を持って地域に働きかけ地域の住民にとっても存在価値のあるホームになって欲しい。

2. 調査報告書

調査員氏名 熊谷まゆみ

同行調査員氏名 大野恒夫

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念に加えてケアサービス目標をつくりその中に「利用者と地域の交わりが行えるように援助する」と掲げ、地域との関係をつくらうとする意識は充分にある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念、ケアサービス目標をホーム内に掲示し目標に近づける努力がみられる。		理念やケア目標をもう一度確認し常に具体的なケアとして取り組めるよう話し合っ て欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会の働きかけをしたが事業所として協賛金を支払うのみになっている。		町内会の回覧板をまわしてもらったりホームの通信を読んでもらったりのお願いをするなど具体的なアクションを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し職員みんなで話し合いをし改善にもつなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され外部評価の改善などについても話し合われている。		町内会や家族の代表も推進会議のメンバーになってもらえるようお願いされたい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回広報紙を発行し家族に近況をお知らせし、月1回の利用料支払時に詳しい報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望など受けやすい状態になっているが具体的には意見や要望があがってこない。		意見や不満、苦情を家族が出すことはホームを良くする為に大事なことを家族に理解してもらおう。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動がなく、利用者となじみの関係ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回計画的に事業所内で研修会を行っている。		事業所内だけでなく外部研修にも参加する機会をつくって欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホームの連絡会に参加し他のグループホームと情報交換・交流をしている。		市だけでなく県の連絡会にも参加し、より多くのグループホームとの交流の機会を作って欲しい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	風習や昔からの行事のやり方や山菜の下処理など教えてもらい、もと板前さんからは味付けの手ほどきなど受けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や思いを把握するために話し合いをし生活史ノートを作り始めたがまだ充分には活用されていない。	○	気づきや思いを職員が共有するためにも生活史ノートの充実を期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聞いたうえでケースカンファレンスやサービス担当者会議などで話し合いをし計画作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングのほかに必要に応じて計画の見直し、変更をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望を聞いており、かかりつけ医との連携がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ家族の希望はなく話し合いはされていない。	○	利用者の重度化や終末期ケア、看取りをどうするか法人としての方針作りをお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導もさりげなく行い、利用者のプライバシーや尊厳を損ねるような行為も見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々できる限り利用者の希望やペースを大事にしながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理や後片付けをし食事中も穏やかであった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの日中のみの入浴体制になっていていつでも入浴できる状態ではない。	○	法人としていつでも入浴できる体制をつくるため、職員増などの検討をお願いしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	草むしり、刺し子、花に水やり、掃除、食事の準備、後片付け、カーテンの開閉など利用者が特技や役割を発揮できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	計画的にホーム外活動日を決め花見やドライブなど楽しんでいる。保育所や他施設の行事などにも参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけていない。扉が開くと鈴が鳴り察知できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。夜間想定も過去に行われている。		近所の人たちにも訓練に参加してもらえるよう働きかけて欲しい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせた食事を提供し摂取量も把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者手作りの作品が多く展示され、花、観葉植物の鉢もおかれ穏やかで居心地のよさそうな雰囲気であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やなじみの小物がおかれている。家族になじみのものの持込をお願いしている。		実態調査時など利用者のなじみのものを意識して持ち込むようお願いしたい。

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム ひびき

記入担当者名 管理者 齊藤 康

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。